

IV. 項目ごとの記述

全項目の改善が必要であるが、少人数の教職員のため、平成28年度は、「★」印を重点に改善し、ワンランク評価を上げることを目標とした。

(1). 教育理念・目標	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
A. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
B. 学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
C. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
D. 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
E. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

現状	<p>A. 建学の精神に基づき、学校方針を掲げ、周知している。</p> <p>B. ブライダル及びその周辺職種、エステ、ネイル、美容部員などに必要なスキルやマナーの教育を強化している。</p> <p>C. 将来構想として学校の教育と財務の適正規模を図ることが最重要である。</p> <p>D. 入学オリエンテーションや保護者説明会で伝えているが充分ではない。</p> <p>E. 平成27年5月の学校関係者評価委員会で業界ニーズを確認し、対応に努力中である。</p>
課題	<p>ブライダルおよびエステ、ネイル、メイクの専門的実践教育から職業への移行が本校の目標であり、課題として ①専門的特化分野の育成 ②社会ニーズの吸収システムの確立 ③職業へのスムーズな移行をあげる。</p>
今後の改善	<p>①専門的特化分野の明確化については、平成29年度からの新カリキュラム導入する。</p> <p>②社会ニーズの吸収と業界との信頼関係構築については、学校関係者評価委員会の委員を一新し、定例化および充実する。</p> <p>③就職指導、生活指導を活用した職業意識形成とマナーの確立を強化する。</p>
事項記	<p>・学生便覧3～7ページ(建学の精神・学則)</p>

平成28年度 自己評価報告書

(2). 学校運営	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
A. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
B. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
C. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
D. 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1
E. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
F. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
G. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
H. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

現状

- A. 建学の精神、学校方針に沿って学校運営が行われている。
- B. 各目標に沿った年度ごとの事業計画がある。
- C. 明確化されているが、有効活用のために更なる努力が必要である。
- D. 整備されている。
- E. F. 整備されている。
- G. ホームページ、ブログなどに公表している。
- H. 効率化、努力を継続中である。

課題

「豊かな知性と誠実な心を持ち、社会に貢献できる人材を育成する」を学園の建学の精神とし、学校の目的(学則)・事業計画・中長期計画を策定し、運営方針を定めている。方針に沿った学校運営を行っているものの未整備・未実行・未達成の項目も多く残され、機能をしていない部分もある。具体的には、次の項目が課題とされる。

- ①中長期計画の具体的項目として退学者減少と資格取得向上
- ②情報システム化などの業務の効率化
- ③KPIの一部未達成項目

今後の改善方策

専任教員4名、専任職員2名、非常勤講師、法人本部を中心とする姉妹校教職員の力を組み合わせ、効率よく有効な学校運営を再検討する。また、学校関係者評価委員会を通じて業界、業者、サロン、学生、保護者などのステイクホルダーとの関係強化を図る。

特記事項

平成28年度 自己評価報告書

(3). 教育活動		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
A. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1	
B. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1	
C. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1	
D. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1	
E. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1	
F. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1	
G. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1	
H. 職業教育に対する外部関係者からの評価の取り入れているか	4	3	2	1	
I. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1	
★ J. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1	
★ K. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1	
★ L. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1	
M. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1	
N. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1	

現状

- A. 建学の精神、学校方針に沿ったカリキュラム整備完了。実施、検証は今後の作業。
- B. 教育課程表に展開される科目に明記。
- C. 編成済み。検証は今後の作業。
- D. 職業教育については体系化されておらず、今後さらなる向上が必要。
- E. 平成27年5月、学校関係者評価委員会において検討済み。
- F. 制度作成は完了。ただし、体系的な位置づけには至っていない。
- G. 改善の余地はあるが、体制作りは完了。
- H. 平成27年5月、学校関係者評価委員会において検討済み。
- I. 基準を明確化の上、学生便覧で学生周知。
- J. 新カリキュラム(平成29年度より実施)において体系化。
- K. 今後、教員の資質向上に努める。
- L. 特に非常勤講師の採用において実施中。
- M. 教員の資格取得支援の実施。
- N. 各種研修紹介を実施。

課題

- ①教育目標(学科・コース・分野)の設定がなされていない。そのため、体系的なカリキュラムの編成ができていない。
- ②専任教員の教員としての知識・技術が不十分である。
- ③専任教員の経験不足に伴い、非常勤講師との連携(指示・話し合い)が不十分である。

今後の改善事項

- ①教育目標(学科・コース・分野)の設定を平成29年度新カリキュラムに変更する。
- ②教員としての心構え・資質の向上・学生指導の知識など計画的に実行する。
- ③講師会議を設け、学校教育方針を伝えるとともに、専任が中心となって非常勤講師を管理する体制を確立する。

平成28年度 自己評価報告書

(4). 学修成果		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
★	A. 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
★	B. 資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
★	C. 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
	D. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
	E. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1

現状
A. 就職実績及び企業との信頼関係ともに向上している。
B. 学校として資格取得率向上に努力している。
C. 平成27年度より欠課過多面談を制度化し、退学率低減に取り組んでいる。
D. 特長的成果については把握し、学内や校友会で報告しているが、情報収集活動は不十分である。
E. 学校として卒業後の情報収集体制が不十分である。

課題
①資格取得意欲が低い学生がいる。
②就職後定着率が悪い。

今後の改善方策
①希望者職種と優良企業(サロン)とのマッチングを前提とした就職指導を実践する。
②資格の必要性を学生にしっかり説明する。
③卒業1年後の定着状況調査を実施する。

特記事項
・学生便覧19～24ページ(奨学金給付細則・学生生活に関する一般的注意事項について)

平成28年度 自己評価報告書

(5). 学生支援	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
A. 就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
B. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
C. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
D. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
E. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
F. 学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
G. 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
H. 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
I. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
J. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

現状

- A. 職業指導を1コマから2コマに増やし、支援体制の充実に努めている。
- B. 小規模校であり、専任全員が全学生の顔と名前を覚えており、学生相談体制は整備されている。
- C. 経済支援奨学金を整備している。
- D. 年1回の健康診断を実施している。
- E. 必要に応じ近隣のELIC専、美容専に支援してもらっているが、体制整備は不十分である。
- F. 平成27年度に学生サロン室を設置し、生活環境の支援に努めている。
- G. 従来からの保護者会に加え、入学前保護者説明会、新2年生保護者説明会を設け、保護者との連携強化に努めている。
- H. 校友会での情報交換、学校からの情報提供などを行っている。
- I. 校友会や学校関係者評価委員会などから社会人ニーズを収集し、教育に反映する努力を行っている。
- J. 学園姉妹校(高校)の生徒を体験入学に呼び、職業を体験してもらった。

課題

- ①就職指導が体系化されていない。
- ②学校全体で就職情報の共有が不十分である。
- ③担任の就職指導経験と力量が未熟である。

今後の
善方策

- ①体系化した就職指導体制を整える。
- ②職員会議において各担任から状況報告と就職指導の報告をする。
- ③教員対象の研修会を実施する。

事項記

・学生便覧19・20・25・27ページ(奨学金給付細則・学生生活に関する一般的注意事項について)

平成28年度 自己評価報告書

(6). 教育環境	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
A. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
B. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
C. 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

A. 最新設備とはならないが、専修学校設置基準上必要な面積を確保し、各分野(ブライダル、エステ、ネイル、メイク)の実習に対応可能な施設設備を整えている。
 ●B1F:図書室、●1F:展示スペース、保健室、職員室、●2F:トータル実習室、●3F:ブライダル実習室、●4・5F:普通教室
 B. 校内施設設備において、対応ができない箇所を、社会研修や模擬挙式・披露宴(3回/年)を学外施設を利用し、補っている。
 C. 消防計画に基づき、消防設備点検の実施(2回/年)、防災訓練(避難訓練、消火訓練、防災器具の取扱)を実施している。また、防災用品についても、①AED ②災害ベンダー ③非常食・水を備えている。

現状

課題

- ①学内資源の整備、充実
- ②学外資源の活用
- ③インターンシップの準備

今後の
方策の
改善

- ①学内施設の計画的な補充と整備
- ②活用できる学外資源情報の収集と実地確認
- ③インターンシップを組織的に実施する。

事項
特記

・学生便覧13・14ページ(台風、公共交通機関のストライキ時の休講について・東海地震に関する対応について)

平成28年度 自己評価報告書

(7). 学生の受入れ募集		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
★ A. 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1	
B. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1	
C. 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1	

- 現状
- A-①. 学生募集は、愛知県専修学校各種学校連合会の取り決めに基づき、志願者の立場に立って適切、適正な情報提供を行っている。
A-②. 募集方法としては、近年、SNS(ブログ、ツイッター)を中心に情報発信を週2～3回程度行っている。入学案内、各種案内書、各種リーフレット、ホームページ等においては、事実を適切に分かりやすく伝えることに努めている。出願受付期間についても取り決めに従った適正なものとなっている。
B. 就職実績や資格取得実績については、曖昧な数値や表現で伝えるのではなく、具体的に何年度の数値であるのか「企業名」、「資格名」も表示し、志願者が誤解しないような伝え方を心掛けている。また、実務、技能の教育成果は、文化祭や模擬サロン(卒業制作)、模擬挙式・披露宴(年3回)において、不特定多数の外部者を招き実施をすることで、外部からのチェックも同時に受けている。
C. 学納金及び奨学制度については、社会情勢を踏まえ毎年検討を重ねるとともに同分野他校とも比較を行っている。表示方法においても、「別途徴収」等の不明確な言葉を使用せず、2年間で必要な学納金を明確に表示するよう努めている。
- 課題
- A-①. 入試種別において、種類、出願期間、出願条件が複雑なため、今後、志願者の側に立った入試方法へ改善する必要がある。
A-②. SNSによる情報発信が不十分である。
C. 学納金(教材費、行事費)については、2年生の卒業時に返金を行う際、学科・コースにより多額となるケースがある。
- 今後の改善方特記事項
- A-①. 現状ある7つの入試形態(「指定校推薦」、「特別推薦」、「特別自己推薦」、「学校推薦」、「自己推薦」、「AO入学」、「一般入学」)を精査し、志願者が理解しやすい入試方法にする。
A-②. SNSによる情報発信を毎日行う。
C. 専任教員、非常勤講師が連携し、教材の重複を無くし、必要最小限の教材選定に努める。イベントについても、社会情勢を加味した上、教育効果が低い内容のイベントを入れ替える等し、適正な行事費の設定に努める。

平成28年度 自己評価報告書

(8). 財務		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
★ A. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか		4	3	2	1
B. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		4	3	2	1
C. 財務について会計監査が適正に行われているか		4	3	2	1
D. 財務情報公開の体制整備はできているか		4	3	2	1

A. 開校(平成22年度)から5年、収支均衡までは、もう一步という支出超過の状況が続いていたが、平成27年度は、収支差額がプラスとなり収入超過となっている。
 B. 予算については、理事会で決定された事業計画大綱及び予算編成方針に基づき、校内において予算申請書を作成し、管理者において精査の上、法人事務局に提出する。その後、法人事務局との折衝の後、予算原案を作成し、3月末に開催される評議員会及び理事会の議を経て決定する。執行については、経理責任者が、学園規程に基づき、予算の範囲内で適切な処理を行う。
 C. 公認会計士(実地監査1回、書類監査1回)及び監事により実施している。
 D. 法人において「私立学校法」に定められた財務書類を学園規程に基づき、学生、保護者、卒業生、その他利害関係者の請求に応じ、閲覧を供している。また、法人広報誌「Commu」に掲載するとともに、法人のホームページ上でも公開をしている。

平成27年度は、収入超過にはなったものの、中長期的には財務基盤が安定した状態とは言えない。

安定した入学生の確保と退学者の防止に努める。支出では、非常勤講師の人件費を抑制していくことが必要とされる。

現状
課題
改善後の
策方の特
項記事

平成28年度 自己評価報告書

(9). 法令等の遵守	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
A. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
B. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
C. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1
D. 自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

現状

A. 学校教育法、専修学校設置基準等の遵守に関しては、学則を定め、法令に沿った学校運営を行っている。また、平成27年度は、学則では不十分な運用レベルの取り決め(学内規程)を、10規程整備した。
 B. 個人情報の保護に関して、学園で組織する「個人情報保護委員会(組織の長及び事務長を中心)」で適正化を図っている。また、学園規程(個人情報の保護に関する規程、特定個人情報の取扱に関する規程)、学校規程(個人情報保護に関する規程)を整備し、規程に基づき適正な運用を行っている。
 C. D. 平成26年度自己評価報告書を冊子にし、学園本部及び教職員関係者に配付を行った。また、学校関係者評価を含め、本校のホームページにも掲載し、広く公表を行っている。

課題

A. 各法令については、毎年、変更が生じるため、常に見直しを行い、適正な運営をしていく必要がある。
 B. 個人情報には、パソコンデータも含まれるが、教職員のパソコン、Web知識が低いことに伴い、管理法の改善が必要である。
 C. 自己評価結果について、改善項目を常に教職員が意識し、業務に取り組めるような方策が必要である。

今後の改善方策

A. 学内規程及び運用ルールは、常に改善を行う。
 B. 個人情報の取り決めだけでなく、教職員のパソコンやWebの操作方法等もルール化する必要がある。
 C. 改善計画については、「いつ」、「誰が」、「どうやって」実施していくかを詳細に計画を立て、職員会議等で状況報告をする等していく必要がある。
 D. 自己評価を平成28年度4月に終了し、5月に学校関係者評価委員会、7月に評価結果の公表を実施する。

事項記

平成28年度 自己評価報告書

(10). 社会貢献・地域貢献	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
A. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
B. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
C. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

現状
課題
今後の改善方策
特記事項

A-①. 平成27年度私立学校施設整備費補助金エコキャンパス推進事業を活用し、屋上に太陽光パネルを設置することにより、地球温暖化対策に貢献できるよう学校全体で省エネに取り組んでいる。
A-②. 学校祭や卒業サロンでは、地域に学校を開放し、お客様として招き、日頃の教育成果をサービスとして提供をしている。
A-③. 開校2年目より4年間、ブライダルビューティー科の学生が、一般の方(外部者)の挙式・披露宴を執り行い、本校の特色を活かした社会貢献を実施している。
B. 金山商店街からの依頼を受け、夏の休業期間を利用し、第9回・10回金山夏まつりに出展(ドレスショー)をする等、地域の活性化に取り組んでいる。

社会・地域貢献及びボランティア活動は、現状では受身の体制であるため、本校から積極的な取り組みや発信ができるようにする必要がある。

献血など、実施内容を考案し、年間行事に入れるよう努める。